

# 令和元・2・3年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 伊佐市立牛尾小学校研究公開

## 1 研究主題

自分の考えをもち、深め合う国語科の授業づくり  
～文学的な文章における学習指導を通して～

## 2 研究発表

伊佐市立牛尾小学校では、令和元年度から3年間にわたり、地区研究協力校として「自分の考えをもち、深め合う国語科の授業づくり」を研究主題に、研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、2つの仮説に基づいた具体的な手立てやそれを基に構成した1単位時間の授業モデル、ICTの活用、学力向上や語彙力の向上につながる取組について紹介されました。

研究内容及び具体的な取組は、以下のとおりです。



【研究発表の様子】

### 1 仮説1（自分の考えをもたせる手立ての工夫）について

- (1) 意欲をもたせるための手立て  
ア 教科書「見通しをもとう」の活用    イ 「課題解決的なめあて」の設定
- (2) 考えをもたせるための手立て  
ア 「学びの足跡」の活用    イ ワークシート等の工夫

### 2 仮説2（考えを交流する場の工夫）について

- (1) 方法の工夫  
ア 考えの可視化    イ 発問・問い返しの工夫    ウ メモの習慣  
エ キーワード等への着目
- (2) 考えをまとめさせる手立て  
ア 文型の提示    イ まとめ方の提示や助言

### 3 授業モデルについて

- (1) 「つかむ・見通す」過程での意欲をもたせる手立て
- (2) 「調べる」過程での児童に自分の考えをもたせる手立て
- (3) 「深める」過程での考えを共有させる手立て
- (4) 「まとめる」過程での自分のまとめができるための手立て

### 4 ICTの活用について

- (1) 考えの共有    (2) 学習の蓄積    (3) デジタルドリルによる個別学習
- (4) 情報端末のカメラ機能の活用

### 5 学力向上や語彙力の向上につながる取組について

- (1) 学力向上タイム    (2) 表現タイム    (3) 絵本の読み聞かせ
- (4) 国語コーナー    (5) その他（音読カード等）

### 3 公開授業

研究を具現化した検証授業として、3・4年生の複式授業が公開されました。感染症対策として参観時に密になることを避けるため、体育館で行いました。

上山崎恭平教諭が、3年生は「ちいちゃんのかげおくり」の全7時間の5時間目、4年生は「ごんぎつね」の全10時間の8時間目の複式授業を行いました。3年生は、1人の在籍ですが、思考の時間がしっかりと確保され、主体的な学びの姿が見られました。4年生は、ロイロノートを活用して、全員の考えを大型ディスプレイで確認し、お互いの考えを交流させながら自分の考えを深める姿が見られました。

体育館での研究授業でしたが、学びの足跡として前時までの各時間のまとめが周囲に掲示してあり、児童は、それらを確認しながら授業を進めていました。



【第3学年研究授業】



【第4学年研究授業】

### 4 授業研究会

授業研究会は、タブレットを活用して、全体での研究協議が行われました。授業参観後、ロイロノートを使用し、参加者に仮説についてのアンケートや質問、意見等を入力、提出してもらい、その結果等を基に意見交流がなされました。

研究協議の中で出された意見等の主な内容は、以下のとおりです。



【授業研究会の様子】

#### 【授業後アンケート結果から】

- 仮説1の手立ては参加者の69.2%が「両学年ともに効果的であった」と回答。「3年生が効果的」は11.5%、「4年生が効果的」は3.8%であった。
- 仮説2の手立ては参加者の53.8%が「両学年ともに効果的であった」と回答。「3年生が効果的」は30.7%、「4年生が効果的」は7.6%であった。

#### 【意見等】

- 3年生に他者の意見を紹介する場面で、先生の考えを参考に提示したのは効果的だった。理由の表記の仕方についてキーワードを提示したらより書きやすかったのではないかと思う。
- 4年生の授業では、少数意見を教師側がフォローする手立てがなされていた。

次に、参加者の感想の一部です。

- ・ ロイロノートで考えを視覚的にとらえさせるために赤や白のカードを使い分ける方法は、国語科に限らず活用してみたいと思った。
- ・ 4年生の児童が、よくロイロノートを使いこなしていた。また、児童間の考えの交流もタブレットを活用していたので比較しやすいと感じた。
- ・ 複式学級の学習の進め方や児童の自発的な学びは大変勉強になった。